



世代を超えて 住み続けられる住まいの条件

～家族ネットワークの結び目としてのマンション～
龍谷大学法部教授 広原盛明さん

今回はまちづくりや家族の変化をテーマに、現代の住まいに至るまでの歴史的背景を家族形態の変遷とともに話したいと思います。住まいとは人々が暮らすための器であり、家族生活という中身が器である住まいを変えました。戦後の住まいと家族の変遷には約20年をサイクルとする三度の変革期があったといいます。

第1期は、高度経済成長のスタートに当たって1955年に日本住宅公団が設立され、近代的集合住宅である団地アパートが誕生しました。2DKプランや水洗トイレ、マンションの3種の神器などがこの時期のワードです。

家族の形は戦前の三世帯同居家族から核家族を中心とする世代別家族へと大きく舵を切り、地方の親族と都会の子家族という分類が生まれました。夫は仕事、妻は家庭という性別役割分離の時代では家庭生活を大切にするイホーホー主義やモダンビーバー意識が生まれ、いわゆるモダンリビングが現れたのもこの時期です。オイルショック以降の安価な経済成長期を迎えると、住まいは2DKからLDK+個室へ、そしてより広い郊外住宅へと広がっていました。借家住まいから持家(庭付き一戸建て住宅)になり、ショートケーキのような赤いマイカーと白い家の幸せいっぱいな時代です。その時はまだ、専業主婦をモデルに住まいを考えていた時代であります。

第2期は、75年の国連国際婦人年を契機にして男女共同参画社会の形成を目指した時期で、80年代以降に本格化しました。女性が多様な生き方を模索し始め、その社会進出に伴って共働き家族が増加しました。このた

◆主催：京都新聞社
◆後援：京都市、都市居住推進研究会
◆協賛：株式会社ゼロ・コーポレーション



◆第一部：基調講演

「世代を超えて住み続けられる住まいの条件
～家族ネットワークの結び目としてのマンション～」
講師／広原盛明（龍谷大学法部教授）

◆第二部：パネルディスカッション

「コミュニティーマンションの可能性を探る」

コーディネーター／リム・ボン（立命館大学産業社会学部教員）
パネリスト／広原盛明（龍谷大学法部教授）
藤本英子（京都府立芸術大学美術学部准教授）
寺田敏紀（京都市計画局 建築課生監）
加茂みどり（大阪アスティカルギー・文化研究所 研究員）
吉村哲治（京阪コボーリング・関西市場調査部長）
奥野史子（スポーツマガジンデーター）

「コミュニティーマンションの可能性を探る」(第二部)



「コミュニティーマンションの可能性を探る」(第二部)

(椅子)

奥野史子さん

吉村哲治さん

寺田敏紀さん

加茂みどりさん

藤本英子さん

吉村哲治さん

寺田敏紀さん